

---

# 深夜のアルバイト

霧途雲

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

深夜のアルバイト

### 【Nコード】

N4539M

### 【作者名】

霧途雲

### 【あらすじ】

七夕に寄せたお話です。

男は安い軽自動車のドアを、とても丁寧に閉め、深夜のガストに入る。中にはちらほら客がいたけど、それらはみんな物語の主人公には不十分だ。

男はろくにメニュー表を見ず、決まり事みたいにドリンクバーを頼む。不審な目で接客する若い店員が去ってから、彦星はドリンクバーのコーナーへ行って、ウーロン茶をグラスに入れ、自分の席に戻った。蒸し暑い夜だった。

何分かのちに新しい客が入ってきた。女性二人組で、一方はスーツ姿、もう一方は深夜の客の少ないガストに来るのには問題ない、といったかんじの、オシャレでもなく地味でもないワンピースを着ていた。

スーツの女は店に入ってもサングラスを取らず、大きめの黒いビジネスバッグを振りながら一直線にあるテーブルへ向かう。そのあとを無言で私服の女の子が追う。だから、慌てて出てきたさっきの店員は、二人を対応しそびれてしまった。今日は何だか不思議な客が多いな、と思った。

スーツの女は私服の女の子に奥に座るよう促し、自分は手前に浅く腰かけた。言うまでもないことだけど、私服の女の子の向かいには彦星が座っている。つまり女の子の名前は織姫だ。

この時点で、三人のうち誰もお互いの目を見ようとしない。テーブルはまるで電車の相乗りみたいによそよそしい空気だった。例によって店員が注文を取りにやってきたが、スーツの女が「あとで」と一言、じやまな登場人物を奥へ戻した。

スーツの女はビジネスバッグをおもむろに開ける。中には無神経な書類の代わりに、カラフルな細長い紙の束が詰め込んであった。鞆の中身がもし仮にスーツの女の心を表すなら、それはどんなに素敵なことだろう。カラフルな細長い紙の束をテーブルの上にどっさ

り置くと、女はそのまま席を立ち、喫煙席の方へ移って行った。あくまでも事務的に。

さて、残されたのはふたり。彦星はそこで初めて織姫の顔をじつと見つめたが、それは織姫も同じだった。彼らはろくな会話もせず、目の前の短冊を一枚一枚丁寧に拾っては、そこに書かれた古今東西のお願い事を熱心に読んでいった。ほとんどのお願ひ事は黙読で済んだが、時々声に出して読まれたのは、二人がとても気に入った願ひだった。お金持ちになりたい、海外に行きたい、マンションが欲しい、……。

世の中はお願ひ事で埋め尽くされていて、織姫と彦星はそのことを確かめ合った。もちろん彼らにも願ひ事はあった。それは、何か時間に関することだった。

全ての短冊を読み終わると、彦星は呼び出しボタンを押して、織姫に何か頼むよう言った。織姫は本当に何も要らないと言うので、彦星は仕方なくドリンクバーをもう一つ追加した。織姫はウーロン茶の入ったグラスを両手で持ってテーブルに戻った。

お互いのグラスが空っぽになる分だけ、時が過ぎた。

スーツの女は頃合いを見計らって織姫と彦星のテーブルにやってきた。「そろそろお時間です」と、女はどこまでも事務的に用件を述べ、きれいに整った短冊の山をビジネスケースに戻した。それから伝票を持って早々とレジの方へ向かった。

「また、一年後に」と彦星が言った。

「ええ」と織姫が答えた。「また、一年後に」

空になったテーブルの片づけをしに店員が来た。椅子のくぼみに何か光るものがあった。指で引っ張り出すと、それはぴかぴかの百円玉だった。

「ラッキーなことが起こるといい」

店員は生まれて初めて、七夕の願ひ事は叶うことを知った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4539m/>

---

深夜のアルバイト

2010年10月12日06時51分発行